

ヴァイアス

愛する者も また死す

北村 想

「ヴァイアス *Vias*」というのは造語であって辞書にはナイ。意味は 時代のエ
ピステーメー（パラダイム）のディスクールをトランセンデンタル（超越）した「存
在」とすることにした。

登場人物

Q（女性・アジール世界の存在）

阿藤智江（あとうともえ・女性・レンタルビデオ店員・年齢相応）

橋本三津子（はしもとみつこ・女性・高校教師・年齢相応）

有島明子（ありしまあきこ・女性・看護師・年齢相応）

都留ナミ（つとめなみ・女性・水商売（おそらくキャバクラ）・年齢相応）

堀部玲子（ほりべれいこ・女性・保母・年齢相応）

中沢淳三郎（なかざわじゅんざぶろう・男性・刑事・年齢相応）

葦井静（あらいしずか・男性・某悩み事相談室職員・年齢相応）

八重山仁介（やえやまじんすけ・男性・市会議員・年齢相応）

黒又五朗（くろまたごろう・男性・マッサージ師・盲目・年齢相応）

彼（男性・舞台には登場しない作家）

『ヴァイアス』の予備知識と、理解の助けそういうものが要るのかどうか、さだかではないが、11名に及ぶ登場人物にとって、せめて、この『ヴァイアス』たる芝居の舞台設定と、世界のありようを統一しておいてもらったほうがよろしいかと思うので、記します。

舞台は、左右奥ともに白い壁の部屋で、アトは、場面によって椅子がひとつとボードが一枚出てくるだけである。ただし、便宜上、壁は客席のほうに末広になっている。左右奥中央に出入り口が各ひとつずつ全部で三つある。つまり、左右両隣、奥にも同じような部屋があると思ってもらってよい。この辺りからピータ・ブルックの「何も無い空間」の実践として演じられた『真夏の夜の夢』を思い起こされてもよいし、その雰囲気から、かの難解なる映画『キューブ』を脳裏に描いていただけでもよい。舞台美術としてはこれだけで、これはこの芝居の世界を創るとともに、予算をかけずに舞台装置を作るといふ配慮からきている。(そういう部屋が幾つもあると推定される)

さて、やや難しいかも知れないのは、その世界設定(情況設定)である。いわゆるシチュエーションというヤツね。が、これも、コンピュータ(パソコン)をたいていの者は操作しているので、そう難しくはナイかも知れない。

コンピュータの演算は知っての通り二進法で、その最少単位は、0か1を1ビットと数ええ、8ビットを1バイトとする。であったと記憶する。ここで1バイトというのは、8ビットの単位を持ったディスク(CDやDVDのようなもの)が一枚あると、頭に描いてもらえればよい。たとえば、このディスクが10枚重なれば(この重なるというというトコロが大切なのだが)8ビット10バイトの演算が可能になるという仕組みだ。まあ、ここまでは別に特にどうでもいい。重要なのは、先にも記したように、この演算世界は便宜上重なっている(重層構造になっている)ということなのだ。これだけを脳の片隅に残しておいてくれればよい。

私たちは社会科の歴史の授業で、歴史年表というヤツを何度も目にしている。あの、横に長いヤツ。

ところで、たとえばあの時代区分の横長を円筒の棒状にして、輪切りにして、つまりディスクを作り、もう一度それぞれを縦に積み重ねてみたらどうなるか。ひとつのある時代(区分)が一枚のディスクになっていて、それが何枚も重なって層になっているというわけだ。そういう歴史年表があったとして、それもまた歴史の認識の仕方、観方には違くない。

いま、わかり易く一枚のディスクには一つの時代が割り当てられたとしよう。一枚のディスクに(鎌倉なら鎌倉、室町なら室町、江戸なら江戸、明治ならトローチ)と、その

時代の、人物や地理といった物質的なものから、主要なある思考や秩序や、ものの観方や先入見、真理と信じられているものといった辺りの諸々のデータまでが入力されているわけだが、そういった諸々を一旦とめにくくれるような、基本的な視点が存在するとする。それをフランスの歴史学者・哲学者ミシェル・フーコーは「思考の台座」（エピステーメ）と名付けた。つまり、1枚のディスクはエピステーメという主題（タイトル）が付けれられていると考えるわけである。

これは、物理学などで使うパラダイム（トーマス・クーンという科学史研究家が命名）と似ている。物理学のパラダイムを具体的にいえば、ニュートン力学がパラダイムの時代があったが、現在は量子力学がパラダイムということになる。

では、ディスクールというのは、何だろう。これは「言説」と邦訳されているが、さほど難しい概念ではナイ。一枚のディスク（先程のコトバでいうとエピステーメ）に書き込まれているもの全て（コトバや概念や、活動から、情況、信念に常識、世相に、流行等々といったもの）の集積だと思えばいい。

そうすると、「ヴァイアス」という造語に込められた意味は、もうわかったに違いない。あるエピステーメのディスクを超越（トランセンデンタル）した「存在」ということになる。トランセンデンタルというのは網野善彦という歴史学者が「網野史観」で用いた「超越的」とか「超越論的」とかいう意味で、元来は先験的（アプリアリ）という意味だから「歴史的アプリアリ」というふうに記憶しておけばいい。

「アジュール」について。これは「避難所」という意味であるが、私的解釈によれば網野史観の概念として、「時間的貫通性」ではないかと思われる。つまり、エピステーメやそのディスクールが空間的歴史の層の切り取りであるとする、この「アジュール」はその層を貫通して存在する時間概念にあたる。エピステーメの中（つまりディスクの中）に、ポツンポツンと、微細な穴のような場所として存在している。そこにおいては、いつの時代（の層）にも変わらずに存在する祭儀、祀り、儀式、といったものが執り行われる。コトバを変えていうと、いつの時代にも、カタチを変えて、あるいは昔のままが続けられている一種のセレモニーの執り行われる場所。（身近なモノでいえば結婚式とか、葬儀とかを思い浮かべればいい）

これだけであります。

で、何なのだということは、戯曲を読めばワカルはずですが、ワカラなくても演技は出来ず。心配無用。

さて、私（作者）は、これから、そういう前提の下に、ひとつお話を考えます。

セクター1 「かれは真昼の海に眠る」

この場面においては、情景は真つ暗で、視覚はまったく役に立たないということになっていくが、観客に対しては、演劇的照明の配慮で、次第に眼が慣れていき、うっすらと舞台の様子がわかる、ということにする。

その真つ暗な中で、女二人の声がする。

―宗教つてさ、ひとの弱みにつけこむじゃん。

―そうよ、マルチの詐欺商法が、ひとの欲につけこむのと同じよ。

―そりゃあ、人間だものつて相田みつおじゃないけど、人間だもの、弱みとか、いまのコトバでいうへコムとか、悪いことしちやっとなあとか、そういうことのひとつや二つは持つてるのアタリマエだと思ふのよ。

―そうよねえ、欲があるから悪いというけど、欲が無くなったら生きてられないもの。お年寄りが詐欺に引っ掛かりやすいのは、生きようとする意欲が強いからじゃないかしら。一でも、どうしてかしらね。芸能界に創価学会の信者が多いのは。そんなにあのひと達って弱いのかしら。それとも現世御利益つてのにひかれるのかしら。

―詐欺にもピンからキリまであるから、殆ど素人でも出来るのと、プロならではのがあるんだけど、掏摸とよく似ているのは、単独犯でも出来るのに、組織化するってことよ。

一でね、何故か、学会の信者だということを隠蔽、隠す傾向があるでしょ。逆に週刊誌なんかは、すっぱ抜くようにして、記事にするし。犯罪者でもあるまいし。

―似てるのかな、宗教と詐欺つて。

―というか、私、何にもみえないんだけど、これ、真つ暗なのかしら。

―真つ暗だと思っただけど、貴女、どなた？

―名前？

―ええ。

―有島明子。貴女は。

―橋本三津子。

明子 ここ、どうして真つ暗なの。

三津子 というか、ここ、何処なんでしょ。

明子 私、いま、どういうワケか、眼が覚めるようにして気がついて、夢のつづきを無意識に語りだしたんだけど。

三津子 ああ、私も同じ。だから、まだ夢の中かなと思ってた。

明子 他に誰かいるのかな。

他の女性の声がする。

一すいませんが、ナニもみえないんで、電気つけてもらえます。

明子 あ、いた。あの、貴女、どなた。

―私、阿藤智江といます。

三津子 いま、気がついたんでしょ。

智江 はい。

明子 ここ、何処かわかる？

智江 いいえ。

三津子 ここね、何処だかわカラナイの。電気、というか、電灯あるのかな。

智江 暗いですね。何処なんでしょう。

明子 下手に動かないほうがいいわよ。

と、また別の女性の声。

―うわっ、真っ暗。ナニこれ。何処、ここ。

三津子 新しいひとね。

―誰かいるんですか。

三津子 私は、橋本三津子といます。

明子 有島明子。

智江 阿藤智江です。

明子 貴女と同じ、いま気がついたのよ。

三津子 そうしたら、真っ暗。

智江 電気、いえ、電灯もナイみたいなの。

―私、都留ナミです。ここ、何処なんですか。

明子 それもワカラナイの。

ナミ 何で、私たちこんなところにいるんですか。

三津子 見当つかないわ。

ナミ 昨日、酔っぱらったまま、寝たんですよね。こんな所で寝たかな。

と、また別の女性の声。

―すいません。

明子 あっ、別口だ。

―堀部玲子です。実は、さっきから気がついてたんですけど、皆さんのお話を聞かせてもらってました。

明子 早くから気がついてたの？

玲子 いえ、ついさっきです。

と、今度は男性の声だ。

―たぶん、私か最初に気がついたんだろう。

三津子 あら、男性の方ですね。

―中沢潤三郎といいます。ここが何処だか、記憶をたどっていたんだけどね。

智江 何処なんですか。

中沢 ワカラン。それと、どうして私が、いや、我々がここにいるのかもワカラン。ともかく、何かワカルまでじっとしていようと決めたところ、君たちの声が次々と私の耳に聞こえてきたという寸法だ。

ナミ 他にも誰かいるのかしら。

と、男性の声。

―います。

ナミ あっ、いた。

―菫井静といいます。さきほど気がついたんです。あまりの状況に驚いて沈黙してたんですが、仲間がいるので少し安心しました。

また、別の男性の声。

―よろしいですかね。

中沢 ん、まだいるのか。

―八重山といいます。八重山仁介です。まあ、皆さんとたいいてい同じようなもんです。

三津子 いったい、何人いるの。

中沢 いままでで、∞人。

と、また別の男性の声。

―黒又です。黒又五朗です。

中沢 〇人目だ。

黒又 あの、ここ、真っ暗なんですか。

殆どの者が、えっ？

黒又 私、眼がみえないもんで。

ナミ めくらなの。

黒又 ええ。

三津子 でも、情況としては一緒ね。

黒又 いえ、そうではナイんです。

三津子 そうではナイって。

黒又 ここは真っ暗なんですね。

中沢 ええ、真っ暗ですな。一寸先も闇です。

黒又 そうですか。しかし、眼がみえないというのは、真っ暗の中にいるのとはちょっと違うんです。

三津子 そうなんですか。

明子 灰色に近いんですね。

黒又 よく、ご存じですね。

明子 私、看護師やってますから。そういうふう聞き及んでます。

黒又 そうなんですか。めくらというのは、真っ暗の中に住んでいるワケじゃあナイんです。そうで

すね、灰色というか、どんよりとした色のナイ世界にいるようなもんです。

明子 つまり、えっと黒又さんでしたか、

黒又 はい。

明子 黒又さんにとっては、あまり情況の変化はナイんですね。

黒又 ここが何処だかワカラナイというのは一緒です。

中沢 他に、まだ、誰かいますか。

ちよつとした間。

菫井 いないようですね。

中沢 すると、全部で 9 人。さて、情況のひとつはわかりました。ここには男女 9 人の人間がいる

ということですよ。女性が 5 人、男性が 4 人。有島さん、有島明子さん、

明子 はい。

中沢 看護師だとおっしゃいましたね。

明子 はい。市の病院で勤務しています。

中沢 私は、警察官なんですけど、おっと、そう驚かないで下さい。警察というと世間の方は何故か驚かれるんですが、たぶん、そうでしょ。みえないからワカリマセンが。私はいわゆる私服刑事です。地位というなら警部補です。ちよつと皆さんにお訊ねしますが、まず橋本三津子さん、あなた、ご職業は。

三津子 市内の高校で教師をしています。

中沢 教科は何です。

三津子 社会科、主には歴史です。

中沢 阿藤さんは。

智江 レンタルビデオ店で働いています。

中沢 都留ナミさんは。

ナミ 私、お水です。あの、キャバクラです、いまは。

中沢 堀部玲子さんの職業は。

玲子 保母です。幼児が対象です。認可保育園に勤めています。

中沢 次は男性だな。菫井さん、ご職業は。

菫井 とある相談室、市の財団が設立した、いわゆる悩み事相談室に勤務しています。

八重山 八重山です。私は、市議員を二期務めております。

中沢 アトは黒又さんですね。

黒又 はい。私はマッサージのほうをやっています。

中沢 眼がご不自由になられてから、長いんですか。

黒又 はい、生まれつきというわけではありませんが、次第に緑内障が進行して、20年ばかり眼はみえませんが。

明子 スゴイですね、もう皆の名前を記憶してらっしゃるなんて。

中沢 いや、これは職業上の慣れです。有島さんだって、看護師だから、患者さんの名前とか、投薬するクスリとか、職業上記憶してらっしゃるでしょ。

明子 ええ、まあ。

中沢 橋本さんも教師なら、生徒の名前をいっばい覚えてらっしゃるはずだ。

三津子 そうですね。

中沢 その程度ですよ私も。しかし、どうもすいませんね。その職業柄で、いろいろ聞いてしまっただけから質問をするかも知れませんが、プライベートなことはお答えしていただくだけでもよろしいです。ともかく情報が欲しいんです。ここが何処で、我々が何故ここにいるのか、それが知りたいということなんです。

黒又 何処なんでしょうかね。

中沢 何か、どんな些細なことでもいいです。思い当たることはありませんか。

また、暫しの沈黙。

中沢 推測するに、我々の共通点というものはなさそうです。そうすると、無作為抽出とでもいえば

いいのか、そんなふうにして、誰かにここに、私たちは集められたとしか考えようがありません。

明子 集められたって、それは、

中沢 (明子のコトバを遮って) 理由はワカリマセン。ただ、自分の意志でここへ来たのでなければ、連れて来られたということになる。

黒又 あの、どなたでしたか、相談室の方とかいうひとが、いらっしゃいましたね。

菫井 私です。菫井です。

黒又 ああ、菫井さん。

菫井 何か。

黒又 こういう時、相談にはのってくれないんですか。

菫井 いや、それはちよっと。

三津子 いつもは、どんな相談に答えてらっしゃるのかしら。

菫井 それは、いろいろですが、たいていは、若いひとだと将来のこととか、女性の場合は恋愛相談。

お勤めになつてゐる場合は職場での問題。セクハラなんかがそうです。中年の女性になると夫婦関係。男性の場合は退職後のことですね。最近増えているのは、ココロの病気といひましようか、精神的な問題です。

三津子 全てそれをおひとりで。

菫井 いいえ、得手不得手で分担していきますが。

ちよつとした、間がある。

智江・玲子 あの、

智江 あつ、どうぞ。

玲子 いえ、どうぞ。

智江 あの、黙るのは良くないという気がするんです。

玲子 ああ、そうです。私もそういうおうと思つてたんです。

中沢 いまのは、阿藤智江さんと堀部玲子さんですね。それは何故ですか。

智江 黙つてしまうと、何だか不安です。だつて真つ暗でお互いの顔もみえないんだし。喋つていたほうが、安心します。

玲子 ですから、何でもいいから、お喋りして下さい。

八重山 いや、ただ喋つていてもダメなんじゃないですかね。さつき刑事さんがおっしゃつたように、何か思い当たることとか、ないんですか。

また短い沈黙がある。

三津子 いけないわ、そういう事をいわれると、考え込んで黙つてしまうから。

八重山 ああ、そうですね。スイマセン。

菫井 しかし、喋れといわれても。

八重山 困りましたな。

中沢 じゃあ、尋問、といつても取り調べではないので、気楽に答えて下さればそれでいいんですが、私から適当に質問します。

智江 どうぞ。

中沢 皆さん、昨夜は家にいらつしやつたんですか。

智江 私は家です。深夜は男性バイトがやりますから、女性は9時でアップです。それから真つ直ぐ家に帰つて、いつもの如くです。

三津子 私も家です。仕事の残り、というのは試験の採点なんですけど、それをやって、それから寝た、・・もちろん、入浴とか細々とした事はいつもの通りです。

明子 私も10時に病院を出てます。それから寄り道ナシで家です。アトは同じようなところですね。ナミ 私は帰りは深夜というか、時間的には翌日になってましたけど、2時頃帰つたと思つてます。

いつもそうだから。それで、そのままベッドに倒れこんで寝たと思つてます。たいていがそうい

うふうですから。

玲子 私は、ずっと読書してました。もちろん、家で。それで普通に寝ただけです。

中沢 さて、私ですね。私は仕事の整理がつかないので、昨夜は署のほうにいましたが、長椅子で仮眠していたというふうですね。

菫井 次は私でいいですか。菫井です。そうだな、特に変わったことはありません。ぶらぶらと歩いて帰って、コンビニで買い物をして帰宅。風呂、ビール、就眠。ですね。

八重山 私は、いつもの通り、市民の皆さんの為に働いて、まあ、それが仕事ですから、それからアトは、風呂から上がってビール、それからウイスキーの水割りを呑んでたかなあ。キツイ仕事ですから、そのままカウチで寝てしまったような気がします。

黒又 CDを聞いてましたが、もちろん、家です。いつも寝る前はそうなんです。ジャズが好きなんです。それで寝た。それだけです。

明子 何も変わったことはありませんね。

中沢 そのようですね。

菫井 前日のそれぞれの行動は、特に意味のあるものではないということですね。

中沢 そう、なりますねえ。

黒又 警部さん、何か考え事ですか。

中沢 警部補ですが、どうしてわかりました。

黒又 私のようなめくらは、耳が命ですから、そのひとの喋るコトバの感じでいろいろわかるんです。

中沢 そうですか。いや、スゴイですな。確かにちょっと考えか過りました。

明子 何を考えてらしたんですか。

中沢 人数です。

三津子 人数。

中沢 考え過ぎかもわかりませんが、(と、やや躊躇って)・・・こじつけかも知れませんが、女性が5人いらっしやいますね。

明子 それが？

中沢 私がいま受け持っている事件というのが、被害者が女性の連続殺人事件なんです。で、その被害者の数が5人なんです。いや、単なる偶然でしょうけど。

菫井 その場合、残りの男性4人というのは何なのでしょう。

中沢 うーん、ですから、それを考えていたんです。いや、あんまり意味がないことかも知れません。

また暫しの沈黙。

ナミ 私たち、いつまでこんなふうなんだろ。ああ、独り言です。気にしないで下さい。明子 まあ、思っていることは一緒だから。

三津子 不安なのも皆さん一緒でしょうし。

智江 黒又さん、お願いしていいですか。

黒又 何でしょう。

智江 ここ、どういう場所なんでしょう。その、なんというか、

黒又 ああ、そうですね。こういう時は、私のようなもののほうが、役にたちますね。

中沢 しかし、あまり動かないほうがいいですよ。

黒又 いや、何とか、大丈夫ですよ。あの、女性の方、私が触ったりしても驚かないでくださいね。
とりあえず、(と、周囲に手を差し出す)

運よく、壁にその手が触れた。

黒又 壁ですね。壁があります。ずっと壁ですね。あつ、ここは、

三津子 どうしたんです。

黒又 ここ、開いてますね。畳一枚ほどの四角い、これ、出入り口かな。

と、突然明るくなった。

あまり突然だったので、皆、無言で息をのんだ。

黒又 (壁に開いた入り口に触れている) 何ですかね、これは。

中沢 黒又さん、もういいです。

黒又 えっ、いいんですか。

中沢 ええ、いま、明るくなったんです。

ブリッジの音楽。

セクター2 「認識とは、脳髓から血液を搾り出す仕事である」

しばらく皆さん、周囲を観ていたが、

三津子 真っ白ですね。

明子 壁だけか。

智江 あれ(と、三方のうちのひとつを指して) 出入り口ですか。

ナミ 三つある。

玲子 あの向こう側は何なんでしょう。

菫井 何だかこういうシチュエーション、映画で観たことがありますよ。

八重山 けっきょく、ここは何処なんですか。

黒又 明るくなったんですね。

中沢 一人、多い。

中沢のコトバに皆さん、中沢をみる。

中沢 10人いる。

皆さんそれぞれ数を数える。

さて、その合間に、それぞれの服装をみておこう。

季節は概ね春だ。

智江、三津子、玲子はパジャマ。明子はTシャツにジャージ。ナミはやや派手めの(キャバクラの)仕事着。中沢はよれた背広にズボン。菫井は小奇麗なシャツにズボン。八重山はバスローブ。黒又もジャージ、サンングラス着用。そうして、ひとり、黒いタートルネックの薄手のセーターに、同じく黒いパンツ(下着ではない)の女性がいる。

菫井 点呼しましょうか。

と、セーターの女性が、

ーその必要はありません。私はQといいます。

と、自分の名前らしきものを告げた。

黒又 Q?きゆうりのQちゃん?

Q マラソンの選手でナイことは確かですが。

八重山 あんた、何です。誰なんです。どうして、さっきの自己紹介の時に名乗らなかったんです。

Q 私はここにやって来た者ではありませんから。

蕪井 と、すると、

中沢 元より、こののひとなんだね。

Q そうです。

智江 ここ、何処なんですか。

ナミ ここ、何処よ。どうして私たち、こんなところにいるの。

三津子 あの、説明していただけませんか。何もかも。

明子 私たちは、何もかもワカラナイんです。

蕪井 何かの悪戯？それとも秘密の実験か何か？

Q 私は質問を受ける立場のモノではありません。

中沢 しかし、我々には、それくらい聞く権利はあるでしょう。少なくとも貴女が、このの住人というか、関係者であるのならね。

Q ともかく、お座り下さい。

というと、Q自身は立ったままだが、その、不思議な威圧感に気押されて、それぞれは不承不承ながらも床に座った。

Q 最初にお断りしておきます。貴方がたは連れて来られた、つまり誘拐もどきにここに拉致されたわけではありません。

八重山 だったら、何なんです。

Q 貴方がたは、やって来られたのです。

蕪井 ワカラナイな。どういうことです。

ナミ そうよ、全然ワカンナイ。

Q いま私が、貴方がたにお伝え出来るのは、それだけです。

と、Qと名乗った女性は、踵をかえすと瞬く間に奥の出入り口から去った。

あまりの唐突な疑問、降りかかっている意味不明な出来事、その為か、9人は呆然として彼女の後ろ姿を見送るようにみていただけだ。

蕪井 追いかけますか。

中沢 いや、ちよっと待って。もし、彼女が我々に対して何か用事があるのなら、また現われるでしょう。それはそれで、待っていればいい。ともかくですね、明るくなっただからです、もう少し、この建造物の構造というか、大きさや間取りを調べたほうがいいでしょう。いったいどういう設備があるのか、何のための施設なのか、いろいろとやることはあります。

蕪井 別々に、それとも一緒に。

中沢 とりあえず一緒にのほうがいいでしょう。

八重山 どこからにします。

中沢 まあ、当てずっぽうというか、どれも同じですから、そっちにしますか。

皆さんは、下手の出入り口らしい、切り取られた長方形の穴へと去った。

ブリッジの音楽。

上手の出入り口から、中沢とQが出てくる。

が、Qは、先程のQではないようなのだ。

Q (中沢のアトについてきて) ただの通り魔でしょうか。

中沢 にはしては、被害者の人数が多過ぎる。てんでにばらばらにみえて、ひよっとすると何か共通のつながりでもあるのかも知れん。被害者のファイルを順に、もう一度聞かせてくれないか。

Q (抱えていたファイルをみて) はい。まず、最初が阿藤智江。職業はフリーターらしいのですが、被害にあった時はレンタルビデオの店員です。大手のレンタルビデオチェーンのひとつですね。ビデオ以外にもCDや書籍雑誌なども販売しています。勤務時間は開店の10時から6時と、遅いのは1時から9時ですね。住居は、店から徒歩で20分。自転車通勤していたようですが、被害にあった日は雨降りだったので、歩いてますね。被害の時間は、帰宅の10時20分頃。ちょうど表の国道から、横道に入った辺り。後ろから頸動脈を鋭い刃物で斬られています。これが致命傷で、ほぼ即死です。

中沢 雨が降っていたので、痕跡は洗い流されていたというワケだな。

Q そうです。

中沢 アパートにひとり暮らしだったな。

Q はい。実家は同じ県内の少し田舎になります。

中沢 男性の出入りはナシ。

Q 同じアパートの住人並びに近所の聞き込みからはそういう結果になっています。

中沢 勤めて何年になるんだっけ。

Q 2年ですね。

中沢 時給は並だが、趣味が映画鑑賞で、自宅アパートにもDVDが多くあったんだな。Q ええ、特に傾向があるワケではなく、さまざまなジャンルのDVDですが、店の話ですと、中古の廉売を店員価格でさらに安く買っていたようです。

中沢 橋本三津子。

Q 事件当日は、かなり遅くまで学校にいたみたいですね。市内の高校で社会科を教えています。同僚の女性教師が一緒だったらしいんですが、教育問題で話し込んでいたと供述しています。帰りの時間は一緒ですが、方向がまったく反対ですので、すぐに別れて、死体が発見されたのは、畑のつづく道です。遅くなったので、裏道を通ったものと思われま。死亡推定時刻は11時30分前後。凶器はおそらく金属バット。頭蓋骨折、陥没でこれも即死状態です。

中沢 自宅は、実家だな。

Q そうです。帰りが遅いので、学校と交番に問い合わせと、周辺捜査の依頼が電話で入っています。発見者は巡回の警察官、巡査です。

中沢 交際関係は。

Q あったようですが、両親も公認の仲だったようです。別の高校の数学教師ですね。これはアリバイの裏もとれています。

中沢 次にいこう。

Q 有島明子でよろしいですか。

中沢 ああ。

Q これはちよつとめずらしいケースですね。夜勤明けの午前中に、帰宅途中で被害にあっています。最寄りの地下鉄で下車。9時頃に喫茶店『スワン』でモーニングの朝食をとっています。そこから徒歩で15分程の自宅アパート、これは独り暮らしですね、その表で殺されたようです。アイスピックのようなもので、胸、喉など7カ所を突き刺されて、これもほぼ即死です。目撃者はなし。悲鳴を聞いたアパートの住人もいません。

中沢 夜も朝もか。犯人が吸血鬼でないことは、それで判明したワケだ。

Q 都留ナミ。

中沢 うん。

Q マンションの6階ベランダから突き落とされています。最初は自殺かとも思われましたが、ベランダの荒れ具合から観て、抵抗の痕跡があり、そこから突き落とされたという結論に達しました。落下して出来た損傷以外の打撲のアトが検死の結果わかりました。死亡推定時刻は深夜2時から3時のあいだ。男の出入りはあったようです。風俗店に勤務していましたから、当然かも知れませんが。彼女の客、というか、常連客は全部当たりましたが、何れもアリバイが成立しています。

中沢 堀部玲子は。

Q 保母をしていましたから、最後の子供、まだ3歳の幼児ですが、その子供の母親が保育園に迎えに来るまで、保育園にいたことは確認されています。母親の証言から、その日は残業が急に入って遅くなったので、その旨を保育園に電話で連絡し、子供を受け取ったのが午後7時半。そのアト、堀部玲子は、自分の軽乗用車で自宅の最寄りの駐車場まで行っています。殺害現場は、その駐車場です。これは絞殺です。紐状のモノで首を背後から締められて、死亡。死亡推定時間は、8時から9時。自宅は実家ですが、彼女以外の所有する乗用車があるために、彼女は別に駐車場を借りていたワケです。そこから自宅までは徒歩で5分程です。以上です。

中沢 みんな、バラバラだな。

Q はい。従って、犯人の動機はまるで見当がつかない状況です。

中沢 共通点はナシか。

Q 無差別殺人でしょうか。

中沢 (暫し、頭に手をやり、黙考し) 待てよ違うな。ひとつだけ共通点がある。

Q といいますと。

中沢 被害者は、すべて、独身の女性だ。

Q ということは。

中沢 犯人は、被害者が独身であると事前に知っていた可能性が高いということだ。

Q でも、そんなことは、簡単に調べられますよね。

中沢 簡単に来れる。しかし、簡単に来れるからといって、まったく意味がないとはいきれない。

Q 何か意味があるの？

中沢 君は、プロファイリングとかいうのに興味はあるかね。

Q どうでしょう。

中沢 私は、まったくナイ。あんな犯罪心理学より、刑事の勘を信じるね。

いうと、中沢は奥の出入り口に消えた。Qも後について去る。

セクター3 「思想の鍵を握る者は、言語学者である」

ブリッジの音楽。

上手の出入り口から、揃って皆さんが出てくる。

もちろん、中沢も一緒だ。

智江 同じ部屋ばかりですね。

ナミ ここ、さっきの場所ですか。

明子 さっきでもそうでなくても、同じ部屋だけなんだから、仕方ないわ。

菫井 ますます、以前観た映画によく似ているな。

三津子 どんな映画ですか。

菫井 『キューブ』という難しい映画です。立方体の集積のような建造物に閉じ込められるというヤツ。

智江 それ、私も観ました。ビデオですけど。

玲子 あっ、私も。

智江 私は続編も観ました。

菫井 続編があるんですか。

智江 はい。でも、たいしたことなかったです。

黒又 私は観てません。

八重山 アタリマエや。

菫井 あの映画を観た時思ったんですが、トイレはどうするんでしょうかね。

ナミ トイレならありましたよ。

皆さん えっ。

ナミ 私、そういうのみつけるの上手いんです。五つ目の部屋に、囲われた所があったんです。ちょ

八重山 何で、その時いわないんだね。

ナミ だって、別にオシッコしたくなかったから。

八重山 バカだな、君は。

ナミ だって、

中沢 まあ、いいじゃありませんか。あるにこしたことはない。

黒又 じゃあ、私、ちょっと行ってきます。

葦井 大丈夫ですか。

黒又 私にとっては、ここもここ以外も同じようなものですから。

そういうと、黒又は、下手に去った。

八重山 さて、どうするね。

葦井 ここは、平板ですね。

八重山 どういうことだ。

葦井 階段状のモノはありませんでした。つまり、二階も地下、というか上下にはこの部屋はナイと
いうことです。

中沢 よく気がつきましたね。

葦井 ええ、まあ、仕事柄そういう観察はやっていますから。

ナミ トイレわかんなかったクセに。

葦井 あっ、そうでしたね。すみません。アテにならないようです。

明子 それで、さっきの女性の再登場を待ってますか。

中沢 どう動いても仕方ないなら、そうするしかないでしょう。我々がここに連れて来られた、いや、
さっきの女性の弁では、やって来たのなら、何か理由があるはずです。

玲子 でも、ひとりでなくて良かった。これだけ人数がいるだけで、何だか安心というか心強いです
もの。

智江 そうだわよねえ、こんな所に独りでだったら変になるわ。

葦井 うん、それ、それだな。

八重山 何だ今度は。

葦井 つまり、こういうことになるんじゃないやありませんか、何者かはワカラナイが、そいつは私たちの
ひとりに用事があるんじゃないやなくて、全員に用事があるんですよ。

中沢 そうだな。それはいい着眼だな。

三津子 黒又さん、大丈夫かしら。

葦井 行ってみますか。(ナミに) 場所、記憶してる？

ナミ もちろん。

皆さん、下手に去っていく。

ブリッジの音楽。

奥の出入り口から、黒又が登場。

中央でサングラスを外すと、ジャージのポケットから文庫本を取り出して、「読む」。

黒又 一九四五年、駒場より大連の母へ・・・母上様 父上、姉上のご病気はその後いかがですか。帰

寮以来絶えて空襲がありませんが僕は工場へでずに寮の仕事をしています。理科はその動員先の移転に従って、大部分地方に行きましたが、文科は残っております。しかし寮の灰塵に帰するのも時間の問題だと思います。

東京に着いた時はあまり変わり果てていたので驚いたことでしたが、ちよつと渋谷まで出るにしろ、焼け野原の中を歩かねばなりません。地面にむしろを敷き、トタン板を組んで罹災者はそれはみじめな生活をしています。本や日用品など、やはり要るものがあるので、神田や銀座、本郷のあたりへも行きましたが、買い物は何もできないしまつです。店はたいてい焼失してしまっています。

けれども人間のまだ多いのにびっくりすることで、省線の混雑は非常なものです。もう僕もお目にかかれぬと存じます。

地方小都市や、主要鉄道の空襲は毎日のようにありますし、重要海域のおおかたは機雷投下がいぶん頻繁に行われているという話ですから、手紙が届かなくなるのもやがてでしょう。

父上と同じで僕も内地の夏は苦手です。一週間、雨が絶え間なく降って、洋服も着物も部屋の中ですつとり重くなってしまいました。山形の温泉や、その他の田舎に移ってゆく一高生と共に、僕も寮を引き払って行くことは出来るのですが、僕はずっと東京にいることにしました。この界限も再び爆撃に曝(さら)されるのはわかっております。そうなれば行かねばなりません。八月ごろか、あるいはもっと早く長く。

では、父上と姉上へよろしく。お身体くれぐれもたいせつに。

七月九日

母上様。

膝下(しっか)。

(作者注: 膝下とは父母などの手紙の脇付(宛て名の左下)に書き添えて敬意を表す語)

黒又、本閉じる。ポケットに仕舞って、サングラスをかける。

ぞろぞろと連中が上手入り口から出てくる。

黒又 あ、いたいた、こんな所にいましたよ。

黒又 はっ、私のことですか。

八重山 そうだよ、トイレのある部屋にいないんで、皆で心配しとったんだよ。

黒又 ああ、すいませんでした。

三津子 いったい、どうしたんですか。

黒又 はい。私にはワカルんです。

明子 ワカルって、何がですか。

黒又 ワカラナイことは、ワカラナイと認めてしまえばいいのだということです。

ナミ 何よ、それ。

黒又 ワカルことをワカルほうが大切なんです。

黒井 もう少し、具体的に説明してもらえると助かるんですが、黒又さん。

黒又 世間というのは、簡単にワカルことをワカラナイかのようにするんです。
玲子 何のことかしら。

智江 さあ。黒又さんのいってることのほうがワカラナイは私には。

黒又 たとえばですね、皆で一緒に鉄砲を棄ててしまったら、戦争は終わるんです。こんな簡単にワカルことすら、ワカラナイでいるんです。

八重山 何だか急に理想的平和主義者におなりになりましたな。

蕪井 悟られたのかな。(と揶揄する)

黒又 ああ、すいません。ふいに、ふいにですね、ふっとそういう思いがしたんです。

蕪井 インスパイアですね。(また少々の揶揄である)

黒又 何ですか、そのスパイというのは。

蕪井 えっ、ああ、ははは。(笑って誤魔化す)

明子 それで、どうします、中沢さん。何の進展もないし、Qとかいう女性もあれつきりだし。

中沢 ぞろぞろと動くのも面倒ですから、ひとつ賭けに出ますか。

明子 賭けに出るとは？

中沢 集団でも迷子なら、独りでも迷子。ここにいる以上、その状況は変わらないでしょう。女性の方たちは、ここに残ってください。蕪井さん、何か筆記具はお持ちですか。

蕪井 ええ、持っています。

中沢 じゃあ、蕪井さんは、あちら、私はこちら、オマジナイのつもりで、部屋の床に矢印でも残しながら、探索しませんか。

蕪井 そうですね。やりましょう。

八重山 私とこの、按摩さんはどうしてればいいんだ。

中沢 女性たちを守ってやってください。

八重山 そうだね、トイレのこともあるしね。ははは。ねえ。

黒又 トイレに行きたい方がいらっしやったら、ついてきて下さい。私、場所を覚えてますから。

「では」と、中沢は下手に、蕪井は上手に、黒又と、智江、玲子は奥に、去っていく。
ブリッジの音楽がして、暗くなるが、これは演劇における溶暗である。

溶暗。

セクター4「広い道をとらねば生きて行けるわけがない。
けれども誠実さは何ととっても狭い道に行く」

溶明。

葦井が、奥の出入り口から出てくる。

何か調べるようにして、辺りをみまわしているが、さつきと作りが同じである部屋という以外、ナニも目新しいものはない。

上手、出入り口からQが姿をみせる。

Q ここはすべて同じです。

葦井 (驚いて振り向くが、すぐ平静さを取り戻し) 出て来ましたね。何だかそんな予感はしていたんですけども。

Q このことを知りたいですか。

葦井 もちろん。教えていただけるんですけど。

Q お教えします。

葦井 光栄ですね。私が最初にそれを聞けるとは。

Q ディスクをご存じですね。

葦井 机のことでなかったら、CDやDVDなんかの円盤のことですか。

Q 後者のほうです。

葦井 ええ、知っています。パソコンなら扱っていますから。

Q その中なんです。

葦井 えっ。

Q 例えていえば、ここはその中だと申し上げているのです。

葦井 ここが、この場所が、ディスクの中だと、そうおっしゃるのですね。

Q そうです。

葦井 まあ、そういうのは、今日よくあるSFの映画や小説になってますから、さして驚きはしません。すると、この同じ作りの白い部屋のひとつひとつは、セクターに該当するというワケですか。

Q ここは、「アジール」と呼ばれています。

葦井 アジール。うん、何処かで聞いたか読んだかしたことかあるな。アジール・確か網野善彦とかいう日本の歴史学者が提唱した、えーと、語源は避難所、避難する所で、そこから拡張した解釈で、日常の世界から解放された祭儀空間。祀りのある場所、何かしら儀式、セレモニーの行われる場所……じゃなかったですかね。

Q よく知ってらっしゃいますね。

葦井 悩み事相談室ってのはね、突拍子もナイ悩み事にも対応しなきゃなりませんから、雑字が必要なんです。片っ端から、相談者の語るディスクール、おわかりですね、ディスクールです。つ

まり共通規範のコトバからそのひと個人のコトバまで、いまこの世間に叛乱しているコトバを、あっちこっちと調べなきゃなりませんからね。知らないうちにそういう知識も身につくんです。「アジール」について、もう少し詳しく申し上げます。アジール・・・人間はかつて自然の中に在りました。しかし、自然は人間にとって驚異でもあり、権力でもあります。日照りや干ばつもあれば洪水や津波もあります。人間はそういった自然の決定するものから、自由になろうと試みました。自然をコントロールしようと試みてきました。それが、その時代のコトバ、言語や、法規、法律規律などのさまざまなシステムを作り上げるようになりました。

蕪井 なるほど、それで、人間はそのシステムに今度は逆に拘束されてしまうようになったと、たぶん、そういうことをいいたいわけですね。それね「疎外」っていうんですよ。ヘーゲルっていう哲学者の弁証法。そう理解しとけばいいですか。

Q (蕪井のいうことにはいちいち反応しないで)人間の中には、そういった拘束を乗り越えようとする、自らが作り上げたそのシステムを否定しようとする、新しい欲望が生まれてきました。つまりトランセンデンタルな欲求です。当然の成り行きです。

蕪井 トランセンデンタル、うーん、それは、超越するという意味ですか。

Q 社会的なシステムと、それを超えていくトランセンデンタルな欲望、これらはまったく同時に発生する逆方向のベクトルです。そうして、後者のトランセンデンタルな自由を現実世界において表現したものが、それがアジールです。

蕪井 ふーんむ・・・つまりここは、日常のシステムには支配されない、現実から超越したところの世界なんです。ふーん、アジール、ね。

Q ディスクに開いた穴のようなモノをイメージするとよくワカルと思います。

蕪井 ディスクの穴。

Q 小さな穴です。何枚もの歴史というディスクを重ねて、それを尖ったピックで貫き通して出来る穴。それがアジールです。

蕪井 超越したものが、穴、ですか。

Q あるいは狭き道です。しかし、アジール、それこそが、歴史を貫いて歴史を動かしている原動力なのです。

蕪井 歴史を動かしている原動力ということ。

Q フランスの思想家、ミシェル・フーコーの歴史哲学はご存じですね。

Q フーコーの歴史認識は、先程のディスクの積み重ねのようなものです。ひとつの時代が一枚のディスクに書き込まれているとしたら、それを積み重ねていけば、連綿とつづく歴史の層が現われます。そこで、

蕪井 ちょっと待って下さい。えーと、歴史の層。考古学なんかにある、崖に現われた断層のようなものですか。バームクーヘンの断片のような。あつ、成るほど、それで、彼はアルケオロジ、考古学というコトバを多用するの。

Q フーコーのいうアルケオロジ、考古学とは、ディスクに刻まれたさまざまな規則や配列から無意識のシステム、邦訳すれば体系をみつけることです。

葦井 無意識の体系。難しいですね。

Q 知られざる体系といっても、あながち間違いではないと思います。
葦井 体系か。

Q しかし、その為に、フーコーが避けてしまった事柄があります。彼は歴史を体系として、すでに存在するものだというふうには処理しました。そこで、歴史が何故動いていくのか、何故進化していくのかという原動力の問題が欠落してしまっているのです。

葦井 歴史が次々と実現されていくさまというか、歴史のプロセスの要因、そういうことですね。

Q フーコーによると、無意識の体系というものがすでに存在するゆえ、歴史はそのように実現されていくことになります。しかし、アジールの考え方はこれとは違うのです。人間が造ったシステムを、今度は人間が否定する。さらに超越しようとする。そうして出現した歴史をまた、超えていく。奇しくも網野善彦の歴史観は、ここで、マルクスの歴史観を迎えることになります。

葦井 マルクス。そうか、唯物史観による「否定の否定」ってヤツですか。

Q あるいは「超越の連続」、それがアジールの運動です。

葦井 そんなところに、私たちを連れてきたワケは、何なのです。

Q 連れてこられたのではナイと申し上げたはずです。

葦井 やって来たんですか。

Q そのうち気がつかれるはずです。

いうと、Qは、葦井の傍を横切って、下手の出入り口に去った。

それをみおくるでもナシ、と行って、啞然呆然としていてもなく、何やら考え深げに壁をみつめる葦井。

溶暗。

ブリッジの音楽

セクター5 「沈黙の楽園はもう失われたのか。

小鳥は武装しなければならぬ」

溶明。

女性たちが揃っている部屋。それぞれ、ゆったりと座っている。

八重山と黒又はいない。

三津子 理解できない末っ子の死を前にして、お母さんはどうするだろう。

明子 僕にはお母さんのお乳が足らなかったのか。お母さんの愛情が甘過ぎたのは。

智江 僕はいつものように駄々をこねた。

玲子 何と言われても、すかさず泣きやまなかった。

智江 ふと、泣き疲れて見上げた目に、お母さんの淋しそうな、涙でうるんだ視線で、やさしく僕を
答(とが) めている顔が映ったのだった。

玲子 僕は机の上にあっただれかのハンカチをとって、お母さんの膝の上に甘えかきながら赦しを
乞うように、そのハンカチでお母さんの臉を拭いてあげたのだ。

智江 お母さんの眼が笑った。そしてハンカチを自分の手にとって、僕の顔を拭いてやろうとしなが
ら、一富士絹ねーと無心にぼつりと言った。

玲子 あとで尋ねたら、あのハンカチは人絹だった。

三津子 愛はまさにわれわれの故郷に違いない。僕は故郷を持たぬ。

明子 お母さんが僕を駄々っ子と思うのは、全くだ。

三津子 ああ、少年の日。僕は机に向かっていた。書物の中に没頭して、何もかも忘
れながら。その時、お母さんがぼくの肩に手を置いたのだ。「もう夕飯ですよ」って。

明子 わが母。忍従と諦めの瞳の奥に、寂しい微笑の影を宿した、典型的な封建時代
の婦人。お母さんの亡霊が現われるのは、決まって僕が寝ている時だ。

彼女たち、唄う。

「島原の子守歌」(宮崎康平・作詞)

りおどみや 島原の おどみや島原の
なしの木 育ちよ

何のなしやら 何のなしやら

色気なしばよ ショーカイナ

はよ寝ろ 泣かんで オロロンバイ

鬼の池ん 久助どんの 連れんこらるばい

帰りにや 寄つちよくれんか 帰りにや 寄つちよくれんか

あばら家 じゃけんど

唐芋飯や 栗ん飯 唐芋飯や 栗ん飯

黄金飯ばよ ショーカイナ

嫁ごん 紅な誰がくれた

唇つけたら 暖かる

沖の不知火 沖の不知火

消えては 燃える

バテレン祭りの バテレン祭りの

笛や太鼓せ 鳴りやんだ

はよ寝ろ 泣かんで オロロンバイ

鬼池の 久助どんの 連れんこらるばい

姉しゃんな 何処(どけ)行たろかい 姉しゃんな 何処(どけ)行たろかい

青煙突のボタンフル

唐は 何処ん在所(ねけ) 唐は何処ん在所(ねけ)

海の涯ばよ ショーカイナ

泣くもんねがねかむ オロロンバイ

あめ型買うて 引っ張らしよ

この各々のモノログめいた台詞の最中と、歌のうちに、Q、椅子を持って登場。
腰掛けると、文庫本を読み出す。
女性たち唄い終えると、揃って立って左右の出入り口に各々、去っていく。

セクター6「死 秘密の扉はここにある」

Qはいままで読んでいた本を閉じた。

と、上手から、葦井登場。

葦井 やあ、また会いましたね。

Q (葦井を観るが、黙している)

葦井 中沢さんを見かけませんでしたか。

Q (同じく、黙っている)

葦井 不思議な場所ですねえ。こんなモノ、誰が造ったんです。何の為に。アジールか。避難所ね。日常世界からの避難所、トランセンデンタル、超越か。さっきご本をお読みでしたね、何の本ですか。また、ミシェル・フーコーとかいう、難しい哲学ですか。フーコーといえば、ご存じだと思いますが、1983年の、とあるインタビューに答えて面白いことをいつてるんです。確かこんなふうです。・・・芸術というと、芸術家という専門家たちがおこなう特殊な活動分野ということになっている。だけど、誰でもひとりひとりの生活、即ち人生というものがある。この人生はひとつの芸術作品になりえないものだろうか。いったいなぜランプやら家屋やらがひとつの芸術作品であるのに、私たちの生活、人生がそうではないなんてことがあるのだろうか。私たちは、自分自身をひとつの芸術作品として創りだすべきなのだ。・・・まあ、こうです。このあたりは、ニーチェの文化論に影響されているところだと、私は思います。ニーチェといえば、同じく彼の思想と格闘した形跡のある若者の話があります。フーコーに先立つこと40年近く前、1946年12月、旧第一高等学校文科の学生であった、原口統三という青年が神奈川県の逗子海岸で入水自殺をしています。あの『二十歳のエチュード』で有名な原口統三です。その本には三つのエチュードが記されており、そのエチュードの、一等最初に記されているコトバ

はこうです。・・・告白 僕は最後まで芸術家である。いつさいの芸術を捨てた後に、僕

に残された仕事は、人生そのものを芸術とすること、だった。・・・いま貴女がお読みになつていたご本は、その原口統三の『二十歳のエチュード』でしょう。

Q (じつと葦井を凝視する)

菫井 そんな怖い視線で観ないで下さい。確かに、いま私は貴女に対して反論を企てています。いや、疑問符を提出しようとしているのかな。まず、第一点、避難所、超越した祀りや儀式の世界であるアジールというのが、何故、こんなに殺風景なんです。これじゃまるで監獄じゃありませんか。第二点、貴女のいうフーコーの歴史認識は、正解とはいえないところがあります。というのも、フーコーは、インタビューに、ああ、たびたびインタ

ビューの話で恐縮ですが、こう答えています。――一冊の本を書き始めるとき、最後に

何を語るのかを知っていたら、その本を書く勇気がわいてくると思いますか？本を書くことにも恋愛関係においても、もっともだとされるようなことは、人生においてもあてはまるんですよ。ゲームというものは、最後がどうなるかわからない限りは、やってみる価値

があるんです。――と、こうです。アルベール・カミュの「反抗」は真摯ですが、やや

憂鬱なところがある。しかし、フーコーのそれは明るい眼差しを持っている。

Q (カミュとフーコーの比較は無視して)フーコーの答えはつまり、数学の『無限論』でいうところの「実無限」と「可能無限」の違いをいってるんですね。

菫井 そういうのをご存じでしたか。ええ、そういうふうな理解の仕方も出来ます。

Q フーコーのいう歴史認識の「体系」とは「実無限」ではなく「可能無限」だと。

菫井 理屈ではそうなります。

と、下手出入り口から、中沢が出てきた。

中沢 ずいぶん難しい話をするんだね、悩みの相談室とやらは。

菫井 中沢さん。何かわかりましたか。

中沢 わかったのは、君のほうじゃないのか。

菫井 いやあ、どちらかというと、非現実的な話を彼女から聞かされていただけですよ。

中沢 私にわかったのは、あまりに現実的なことだけだよ。

菫井 と、いうと何です。

中沢 この建造物は、新しいということだ。あまりにアタリマエ過ぎて見逃してしまっていたけど、これは最近建造されたものとみていいだろう。それと、壁だが、

菫井 壁。

中沢 ああ、壁だ。

菫井 壁が。

中沢 ヒジョウに僅かではあるが、平面ではない。

菫井 どういうことですか。

中沢 (正面の壁、もちろん装置の上では存在しないが、それと、床をしゃがんで触れてみながら) 観ただけでは気づかないが、微妙な曲線を持っている。壁と床の接点だ。つまりこの壁は、ほんの少しだけ、曲面になっている。

菫井 じゃあ、

中沢 そうだな。この建造物は、巨大な円筒、円柱ということになる。

菫井 ディスクですね。

中沢 平べったいのなら、そうだろう。

菫井 (振り向く) あれ。

Qはもういない。椅子だけが、ぼつんと残されている。

中沢 消えたか。

菫井 何者なんでしようかね。

中沢 楽しそうに話してたじゃないか。

菫井 楽しい話じゃありませんよ。

中沢 我々は、連れて来られたのではなく、やって来た、か。やって来た。やって来た。やって来た。……何かな。

菫井 彼女の話だと、ここは避難所らしいですよ。

中沢 避難所。

菫井 そうして、トランセンデンタルな場所だそうです。

中沢 トランジスタなんだって？

菫井 祀りごと、儀式の行われる場所のことをアジュールというふうにいました。そこは、いまいったトランセンデンタル、超越した欲望を満たす場所でもあるらしいんです。中沢 何だね、それはいったい。

菫井 歴史学、民俗学関係の話じゃないかと思うんですけど。

中沢 話したが、私はいま殺人事件の捜査にあたってている。刑事の勘という少々古いコトバでいえば、その事件と、ここは何らかの関係がなければオカシイんだ。何しろ私はここに、やって来たというんだからね。

菫井 みなさんそうなんでしょ。

中沢 そりゃ、そうだろう。他の者もだ。いったい、何のメタファーなんだろう。何だか脳の、もちろん私の頭の話だが、脳の記憶を削られて、無意識に動かされているような気さへする。この変な気持ちは何なのだろう。

菫井 まだつづけますか。

中沢 探索か。一度もどろうか。

菫井 そうしますか。

中沢 もどれるといいが。

菫井 真っ直ぐにしか来てませんから大丈夫ですよ。

中沢 あの女と何の話をしていたのか、もう少し詳しく聞きたいな。

菫井 じゃあ、歩きながら。

二人、上手の出入り口に去っていく。

溶暗。

ブリッジの音楽。

セクター7 「僕ほど、嘘をつくことの巧みな人間はあるまい」

溶明。

奥の出入り口から、女性5人が、一人ずつ出てきて、独り語りをしては、左右の出入り口に去っていく。それが、このセクターの場面だ。

部屋の片隅に、Qが椅子に腰を下ろしているのがわかる。

女性たちの語る話を聞いているのだろう。

その対角線側の隅には、中沢が、頭を抱えるようにして、しゃがみ込むか、床に座り込むかしている。一所懸命に脳髓を働かせているらしい。

阿藤智江が出てくる。

智江・・・何のご相談でしょうと、そう聞かれたのです。ですから、私はまずこういう話をしました。

1942年、ナチスのユダヤ人迫害から逃れたアンネ・フランクの一家は、二年間、アムステルダム隠れ家にひそんでいました。アンネはそのあいだ、あのいたましい『アンネの日記』を書きつづっていたのです。しかし、やがて一家は発見され、それぞれ収容所に送られました。

1944年十月三十日、マルゴットとアンネの姉妹は、ベルゲン・ベルゼンの収容所に移されました。そうして、1945年二月、姉妹は二人ともチフスに感染、発病しました。姉のマルゴットは、アンネの上の段の寢床に寝ていましたが、ある日起き上がりとして力尽き、床に落ちてしまいました。すでに衰弱しきっていた彼女は、そのショックによって死亡しました。アンネはベッドの中で顔をあげ、悲愴な面持ちで、こう呟きました。一お父さんもお母さんも、もう死んでいるに違いないし、これで私は家に帰る希望もなくなってしまったわーそれから数日後、連合軍の部隊がすでにフランクフルトに入っていた三月のはじめのある日、アンネ・フランクは一お母さん、みもとに一と最後の力をふりしぼるように呟くと、静かに息を引き取ったのです。ガス室に送られなかったことのみが、せめてもの慰めといえましょう。・・・何のご相談でしょう。もう一度聞かれた私は、相談事をすっかり忘れてしまって、家路につきました。

有島明子が出てくる。

明子・・・ご相談ごとを承りましょうと、そういわれました。私は、では、と、まずこういう話をしました。

ジャンヌ・ダルクが死んだのは、彼女が19歳の時です。イギリスとフランスの百年戦争の後半、国を救うのは汝なりという神のコトバを聞いた16歳のジャンヌ・ダルクは白馬にまたがってフランス軍の陣頭に立ち、イギリス軍を撃破して、1429年オルレアンを奪還しました。しかし、その翌年の五月、戦闘中に捕虜となりました。

翌1431年五月、ルアンの牢獄から引き出されたジャンヌは、サン・トウアン墓地で魔女狩り裁判にかけられた結果、五月三十日朝、ルアンのヴィユ・マルシェ広場で、多くの群衆が見物する中、火刑となりました。

薪や炭を積んだ火刑台の上に縛りあげられた彼女の胸には、こういうコトバが書かれた札がさげられていました。ージャンヌこと自称『乙女』 虚言者 毒婦 世人（せじん）を惑わせた女 巫女

妄信者 神を汚（けが）せし女 驕慢の者 イエス・キリストを誤信せし者 増上慢 偶像崇拜 残虐淫乱の女 悪魔の祈禱師 背教 離教 異端の者 邪宗の女ー

ただし、ジャンヌの処刑には、こういう伝説もあります。火刑のあと、灰の中から薔薇色の心臓が一つ出てきて、どうしても焼けず、火刑執行人は持て余してセーヌ河に投げ込んだというのです。……（相談）ことを承りましよう、もう一度いわれた時、私は相談事をすっかり忘れてしまっていて、そこをアトにしました。

都留ナミが出てくる。

ナミ ……何にお悩みなんでしょう。と、そう聞かれたので、私は、じゃあ、と、こんな話から始めました。

映画『カサブランカ』『ガス燈』『誰（た）がために鐘は鳴る』などなど、あふれる気品と知性的な顔だちの美貌に恵まれ、戦後の日本でも多くのファンを掴んだイングリッド・バーグマンはスウェーデン生まれでした。

彼女が59歳の時です。ニューヨークで、舞台に出演中、偶然新聞で乳ガンについての記事を読みました。1974年のことです。その時のことをバーグマンは次のように自伝に書いています。ー私も新聞の記事を読みながら、無意識のうちに胸に触っていた。やがて手がびたりと止まった。ああ、まさか。私に限ってそんなはずはないー乳房にシコリがあったのです。

舞台が終わって、数ヶ月ののち、彼女はロンドンで手術を受け、片方の乳房を切除されました。その後治療を受けながら、あのアガサ・クリステイ原作の『オリエント急行殺人事件』で、オスカーを受賞しました。

4年後の1978年、巨匠ベルイマン監督の『秋のソナタ』の撮影がほぼ終了してから、彼女は二度目の手術を受けました。もう一方の乳房も切除されたのです。

バーグマンは自伝の終わりにこう書きました。ー私はかねがね命あるかぎりいつまでも演技をつづけようと思っていた。……私は生涯の終わりにあっても、いつでも演技をする用意だけはできているー

そうしてバーグマンは、その年の八月二十九日、ちょうど69歳の誕生日に、ロンドンの自邸で亡くなりました。彼女は三度結婚しましたが、死んだ時は独身でした。

……何にお悩みなんでしょう。また同じように聞かれた時、私は、すっかりそのことについて思い出せずにいて、そのままドアの外に出ました。

堀部玲子が出てくる。

玲子・・・で、あなたのご相談というのは、何ですか。と、そう問われたので、それでは、と、私はこんな話をしました。マーガレット・ミッチェルが、『風と共に去りぬ』という南北戦争を題材にした壮大な物語を書き始めたのは1927年、27歳の時でした。驚いたことに、彼女はこの物語をラストシーンから書き出したのです。それ以来、病氣、怪我、自信喪失、家庭の雑用に追われて、小説は1935年に至ってもまだ未完成のままでした。しかし、出来上がった部分を讀んだ出版社マクミラン社が、出版を申し込み、彼女は冒頭の部分を最終稿として書き上げたのです。

『風と共に去りぬ』はベストセラーになりました。アメリカだけでも100万部を超え、全世界でも膨大に売れ続けたのです。しかし、どういうワケか、マーガレット・ミッチェルは二度と小説のペンを取ることはなく、というか、かける状態ではなく、巨額の印税の上に胡座(あぐら)をかいて余生を送りました。1949年八月十一日の夜、マーガレットは夫とともにアトランタ市の映画館にイギリス映画『カンタベリー物語』を観に行くために出かけ、酔っ払い運転の自動車に轢かれて、7フィート引きづられ、救急車で病院に運ばれましたが、五日後の八月十六日午前十一時五十分に息をひきとりました。印税と共に去ったのです。・・・で、あなたのご相談というのは、何ですか。と、また声がしました。私は、どういうワケか何もいうことが出来ずに、そのまま戻ってしまいました。

橋本三津子が出てくる。

三津子・・・さて、お悩みのご用件とは、何でしょう。と訊ねられて、私はこんな話をしたように記憶しています。

く妻をめとらば才たけて 顔(みめ)うるはしく情けあるくと、夫の与謝野鉄幹が歌ったとおりの女性であつたらしい与謝野晶子は、その鉄幹とのあいだに十一人の子供をもうけました。

旧家から鉄幹のところに飛び込むようにして結婚生活をおくった晶子でしたが、生活は洗うがごとき貧乏で、昭和10年に夫を肺炎で亡くしてから、大勢の子供たちの面倒をみるのに心労をし遠しでした。

しかし、その間も、晶子はおびただしい数の歌を創り、いわゆる源氏物語の現代語訳では最高傑作の誉れ高い著作をものにしました。貧しくとも、ひとは絢爛たる生涯を持つことの出来る見本のような生き方でした。

しかし、このたおやかで偉大な女性も、それゆえに世の常の女性より燃え尽きるのが早く来ました。昭和15年五月六日、杉並区荻窪の自宅の風呂で、脳溢血を起こして倒れたのが、六十二歳のときでした。

以来、彼女は半身不随となり、昭和17年狭心症の症状も現われ、全身の機能は衰え、五月一日尿毒症を併発、意識不明、同月二十九日午後四時三十分息をひきとりました。

一君死にたまふことなかれ、旅順の城はほろぶともほろびずとても、何事ぞ一・明治37年に二十六歳の晶子が歌ってから40年近くを経た、奇しくもその日、太平洋戦争に転機をもたらす、

あのミッドウェーに日本の主力艦隊が出撃しました。
葬儀に参列した、堀口大学の挽歌は次のごとくです。

一君のゆかりの色の衣かつぎ ねむりておわす少女のように――
・・・さて、お悩みのご用件とは、何でしょう。えっ、と顔をあげた私は、そんなことなど露の間に忘却していたようで、わざと素知らぬふうを装って、その、悩み事相談所をあとにしたのです。

三津子が去ると、中沢が立ち上がる。

Qは、中沢をみた。

中沢 やって来た。そうだ、八重山さん。

振り返りざまにそう呼ぶと、上手から、八重山が出てきた。

八重山 何ですか。

中沢 貴方、名前の通り、沖縄の八重山地方のご出身ではなかったですか。

八重山 ええ、そうですが。

中沢 たしか、あの地方に、古くからの伝統的なお祀りがありましたね。

八重山 古くからの・・・ああ、アカマタクロマタのお祀りですか。

中沢 そうです。それってどんな祀りでしたか。

八重山 いやあ、私も詳しくは知らんですよ。

中沢 だいたいいいんです。

八重山 そうですな。何だか、マンジュとか、ヤマニンジュとかいう連中が信奉している神様がおりまして、その神様はずっとそこ、その土地にいるんですが、年に一回、海の彼方からアカマタクロマタという神様がやって来るとかいり祀りでしたか。その神様は、ある洞窟から出てくるかなにかで、あの世とこの世を行ったり来たり出来るといふふうに、子供の頃に聞かされましたね。私どもは、その神様を一般的には「まれびと」といふふうに呼んでいたと思います。

中沢 「まれびと」というのは、来訪者という意味ですね。

八重山 そうなんですか。

中沢 本土にも似たような構造の歴史があります。農耕民族ではナイ、神人（しんじん）神のひとですが、そういう集団があつて、田植えの季節には、まれびととして、村落にやって来るんです。豊作を祈願するために。

八重山 それが、どうかしたんですか。

中沢 あの女性が、そう、Qとかいっていた女です。あれが、私たちのことをやって来た者と呼んでいた意味がなんとなくわかりかけてきたんです。ところで、（と、Qをみて）君は、誰なんだ。

Qは、無言で立ち去る。

八重山　へんな女だな。

中沢　まあ、いいでしょう。

八重山　で、どんな意味があるんです。

中沢　やって来た者である以上は、我々は、ここで、誰かに出迎えてもらわねばなりません。

八重山　あのQとかいう女がそうじゃないんですか。

中沢　違います。

八重山　じゃあ、誰が。

中沢　私は、エライ勘違いをしていました。我々9人が、全員ここへやって来た者だと思い込んでいたのです。

八重山　そうじゃないんですか。

中沢　9人の中にひとりだけ、嘘つきがいるんです。

溶暗。

ブリッジの音楽。

セクター8「嘘つきが強いのではない。

嘘に迷わない者が強いのだ」

溶明。

今度は中沢が椅子に座っている。

対面しているのは葦井だ。

中沢　殺人事件の五人の女性被害者の共通点がわかりました。

葦井　何だったんですか。

中沢　貴方の悩み事相談室に訪れているんです。五人とも。もちろん、それぞれが内密にですから、いままでわからなかったと、いいわけをいわせてもらいますが。ただし、何の悩みがあつて、貴方の所にいったのかは、こればっかしはワカラナイ。

葦井　それで、何がどうなるんですか。

中沢　葦井さんもう、とぼけなくても、いいんです。

と、Qが奥の出入り口から出てくる。

Q　みんな、貴方が殺ったのね。

中沢　女性五人、連続殺害の犯人は貴方ですね。

葦井　（暫しの穏やかな沈黙のアト、平然として）まあ、そうですね。

中沢　（こちらにも激昂しているふうではない）私たちは、といっても葦井さん、貴方を除いてですが。

私たちはここにやって来た者。貴方は、もともとここに存在していた者なんですね。

蕪井 たぶん、そうなんでしょう。

中沢 嘘つきは貴方だったんだ。

蕪井 嘘つきといわれてもねえ。どうも、記憶というヤツは曖昧でしてね。いや、これも嘘かも知れません。しかし真理というのは最も深みのある嘘である、と、ニーチェもいつてますから。

Q ともかくは、どういえるか、・・・憶い出したというワケね。

蕪井 そういうふうになるなら、そうなんでしょう。

Q このアジールも貴方が造ったモノよ。

蕪井 だから、こんなに殺風景な監獄みたいなものになったのかな。

中沢 まあ、被害者五人の共通点はわかったんですが、蕪井さん、どうも動機がワカラナイ。貴方があの五人の女性たちを殺した理由ですや。

蕪井 ……ヴァイアスかな。

中沢 何ですそれは。エピステーメーにディスクール、トランセンデンタルにアジール、私のような刑事には難しくしょうがないコトバがいっぱいだというのに、今度はナニ、えーと、

Q ヴァイアスです。

中沢 説明してくれ。

Q イチバン簡単ないい方でいってしまえば、歴史を動かす原動力です。歴史のプロセスを創る理念といってもいいでしょう。ミシェル・フーコーは、それを無意識の体系だと信じていました。ヘーゲルは世界理念というものがあって、それを実現させるために歴史があるのだと定義しました。そこで持ち出されたのが「疎外」という概念です。しかし、マルクスにまで話を進めると、理念として描かれる「歴史」と、現実世界での人間のさまざまな活動の結果から生じてくる「歴史」の食い違いを「否定の否定」として捉えたのがマルクスということになります。

中沢 ああ、勘弁して欲しいな。(髪の毛を掻きむしる)・・・つまり蕪井さん、貴方はこの世界に避難所、貴方が現実世界でやってる避難所というのは、悩み事相談室だが、それをこの世界にも創った。そうすると、こんなふうになった。何でしたか、「アジール」とかいふモノになるんですね。

蕪井 そうなるみたいですね。

中沢 と、いわれても殺害の動機は、まだワカラナイ。蕪井さん、貴方、ただのニヒリストなんじゃないですか。

蕪井 ドストエフスキーの『罪と罰』の時代ではありませんよ、中沢さん。ホンモノのニヒリストは、ニヒリズムなんてものも笑ってしまおうでしょうね。

中沢 そうすると、貴方に何か信念のようなものがある、・・・私どもは確信犯というふうに呼んでますが、・・・貴方にとっては真理に基づいての犯行なのですかね。

蕪井 真理。客観的真理の存在。いろんな哲学者や思想家が追い求めてきたものですね。しかし中沢さん、私の考えでは客観的真理というのは、在るのか無いのかが問題なのではない。それが必要とされるのか、否か、が問題になるだけなんです。

中沢 よしまししょうか、蕪井さん。私は貴方の犯罪の動機が知りたいんです。五人の女性たちを殺害した動機が知りたいだけなんです。

Q データはすべて提示されています。

中沢 私の読み方が稚拙なだけということかい。

Q いいえ、貴方はもう、すぐ近くにいます。真実の。この事件の真相の。

中沢 (多少焦燥して) いったい何なんだ。

と、下手出入り口から黒又が出てくる。

黒又 中沢さん、それは母親ではないでしょうか。

中沢、Q、菫井、黒又を観る。

中沢 黒又さん。いま、何とおっしゃいました。

黒又 中沢さん、母ですよ。

中沢 母とは、それはどういうことです。

黒又 私、ずっと、この物語を聞いていて、そう思ったのです。

中沢 母親といたって、被害者はみんな独身女性ですよ。

Q この場合、現実には母であるかどうかは問題ではありません。きっと。

中沢 母、(菫井を観る)・・・なのか？

菫井 とんだところから正解が飛び出しましたね。私は、母を殺したんです。

中沢 母親を殺した。

菫井 そうです。

中沢 何故。

菫井 殺される前に、殺したんです。

中沢 母親に殺される前に、貴方は、母親を殺したというんですか。

菫井 そうです。それがすべての動機です。

中沢 いったいまたそれは、どういうメタファーなんです。あるいは、現実社会に対するシニカルな眼差しなんですか。何だか私には、狂っていると思えない。

Q 狂っているという概念は、ここでは意味がありません。

中沢 じゃあ、何なのだい。

Q ヴァイアスなんです。

菫井 ええ、私は、ヴァイアスです。

中沢 ヴァイアス。(椅子を蹴るように立ち上がった)

菫井は、中沢に一礼すると、立ち去った。

Q もしこれが、東京ふうの演劇だったなら、それらしい音楽の中、周囲の白い壁が取り除かれ、彼らんとした素舞台の空間に中沢警部補が佇む。というカタチで終演になるでしょう。しかし、彼

はそんなふうにはしないでしよう。

中沢 彼って？

Q この舞台には登場しない物語の作者です。といって特定の個人を示すものではありません。ひとつの構築された人格です。

中沢 構築された人格。

Q 演繹的に考えれば、そうなるのです。経済学的にいえば、法人格のようなものです。中沢 そうです。かい。(また、椅子にドスンと腰を落とす) 何だか疲れたよ。私たちは事件を解決しにやっ来てたまればとである。そうして、犯人はそれを出迎えてくれた。簡単にいってしまえばこれだけのことだろ。だから、事件は解決したと思っくいんだろ。

Q ええ、そうです。

中沢 それじゃあ、ちょっと眠ってもいいかな。

Q どうぞ。

中沢 眼が覚めれば、みんな夢だといいな。

Q それも、いいですね。

中沢 母親とは、愛するものだと思っていたが。・・・

Q 愛する者もまた死す。そのみが、連綿とつづく歴史の真実かも知れません。

中沢 Q、君はいつたい、・・・いや、・・・オヤスミ。(ガクンと首を垂れる)

女性たちが各出入り口から出てくる。

智江 私たちの死は、解決したんですね。

玲子 私たちの死は、報われるんですね。

明子 私たちの死が、歴史を創るとすればね。

ナミ 難しいミステリでしたね。

三津子 このやさしい刑事さんに、祈りと鎮魂の子守歌でも歌ってあげましょう。

五人 ええ、それがいいわね。

唄う。

『真白き富士の嶺』

真白き富士の嶺 緑の江ノ島

仰ぎ見るも 今は涙

帰らぬ十二の 雄々しきみたまに

捧げまつる 胸と心

み雪は 咽（むせ）びぬ 風さえ騒ぎて

月も星も 影をひそめ

みたまよいずこに 迷いておわすか

帰れ早く 母の胸に

帰らぬ波路に 友よ千鳥に

われもこいし 失せし人よ

尽きせぬ恨みに 泣くねはともども

今日もあすも かくてとわに

カーテンフオール（閉幕）

主要参考文献並びに引用資料。

- 『二十歳のエチュード』(原口統三・新潮社文庫)
『僕の叔父さん 細野善彦』(中沢新一・集英社新書)
『世界認識の方法』(吉本隆明・中央公論社)
『言葉と物』(ミシエル・フーコー、新潮社・渡辺一民、佐々木明訳)
『狂気の歴史』(ミシエル・フーコー、新潮社・田村 訳)
『臨床医学の誕生』(みすず書房・神谷美恵子訳)
『知の考古学』(河出書房新社・中村裕二郎訳)
『監獄の誕生』(新潮社・田村 訳)
『知の教科書 フーコー』(講談社選書メチエ・桜井哲夫)
『90分でわかるフーコー』(ポール・ストラザン、浅見昇吾訳)
『人間臨終図鑑』(徳間文庫 山田風太郎)
『日本童謡集』(河出書房新社・寺山修司)
他、インターネット検索にて。